

瓦版・ラジオで災害支援情報を多言語で発信

国籍を超え、お互い助け合うことをコンセプトに災害支援活動の拠点を設置

いっしょに
JUNTOS!
NPO コモンズ

Centro de Ajuda
JUNTOS!
Comunicado

ポルトガル語版

2015.11.16 No.19

Juntos, vamos ajudando uns aos outros
Centro de ajuda para recuperação da região「JUNTOS」
Ferramentas para limpeza, local para discutir problemas do dia a dia para a recuperação!
~Não importa sua origem, o sentimento é comum~

Informação

Edição especial de apoio para as vítimas de dano parcial!

■ Será realizada a 2ª Consulta para a Recuperação do Desastre de Joso

A Organização de Apoio de Recuperação Regional de Desastre e a prefeitura de Joso realizam uma consulta para tratar de assuntos variados. Venham consultar com especialistas de diversas áreas.

【Especialistas que participarão】
Advogados, escreventes técnico judiciário, técnicos administrativo, contadores, consultores de empresas, arquitetos, avaliadores de imóveis, engenheiros, avaliadores de móveis, administradores de apartamento, consultores de seguro social, assistentes sociais.

Data : Dia 22 de novembro, 11:00~17:00
Local : Prédio principal 1F da prefeitura, Shimin Hall
Realização : Organização de Apoio de Recuperação Regional de Desastre e a prefeitura de Joso

■ Participe da 2ª Reunião de Cidadão JUNTOS
“Vamos compartilhar o sentimento e a ligação entre os moradores”

Vamos refletir junto com Sra. Yoshitomi, fundadora da Rádio de línguas estrangeiras na estação “FM YY” no Terremoto de Kobe de 1995 e trabalhou com a prevenção de desastres da região, comunicação entre os moradores e a convivência com culturas diferentes, como o compartilhamento dos sentimentos e a ligação entre os moradores ajudam na recuperação da cidade e de nossas vidas.

Data : Dia 29 de novembro, dom. 15:00~17:00
Local : Prefeitura de Joso, prédio de reunião 2F, plenário
Convidado : Sra. Shizuyo Yoshitomi
(NPO Takatori Community Center, diretora)
Público : Aberto para público
Realização : Ibaraki NPO Center Commons
Toyota Foundation
Inscrição : Tasukeai Center JUNTOS ☎:0297-44-4281

センターが発行する瓦版のポルトガル語版。当初は日本語とポルトガル語版のみで、その他の言語はバックナンバーを翻訳し配布されている。

氏は、「ともに助け合う」というコンセプトをもとに“一緒に”を意味するポルトガル語「juntos」を合い言葉にした拠点を設立した。

助け合いセンターJUNTOSでは、手始めに洗浄機やリヤカーなどの機材の貸し出し、多言語での瓦版発行を始めた。瓦版「Juntos（一緒に！）通信」は、日本語のほか、ポルトガル語や英語、スペイン語、中国語に対応しており、ごみの受入れ場所や給水場所、浸水した場合の掃除の方法、相談会の開催日時など様々な情報が掲載されている。また、常総市災害FMと連携し、外国語で生活情報を発信するラジオ番組を放送。被災者向け支援制度の申請書類の翻訳にも携わり、県国際交流協会、群馬県大泉町、兵庫県の翻訳機関と協力して対応にあたったという。

瓦版をはじめとする翻訳には、ポルトガル語ができる非常勤スタッフのほか、避難所で出会ったブラジル人にボランティアを依頼。また、つくば市国際交流協会の呼びかけに賛同した英語・

平成27年9月、豪雨により茨城県常総市を流れる鬼怒川が決壊。市内の4千以上の世帯で床上浸水となるなど、広域で甚大な被害をもたらす大規模水害が発生した。市内のNPO団体「茨城NPOセンター・コモンズ」は、災害発生からほぼ1週間で災害支援活動と情報発信の施設「助け合いセンターJUNTOS」を設置。国籍を超え、外国人居住者と地域住民がお互い助け合うことをコンセプトにまちや暮らしを再生していくための拠点として活動を行っている。

茨城NPOセンター・コモンズは、1998年のNPO法成立を受け、茨城県における同制度の普及や、団体の立ち上げ・運営の支援を行うために発足。今回の水害では、常総市内の事務所も水没した。助け合いセンターJUNTOSの発起人でもある同代表の横田氏は、自身も自宅で被災し、災害から3日目に市内の様子を目の当たりにした。「泥が片付いたとしても、『なんでこんな目に』という心の傷は残る。それを癒すには、仲間だと思える存在、関係が重要」と考えた横田

氏に市内の様子を目の当たりにした。「泥が片付いたとしても、『なんでこんな目に』という心の傷は残る。それを癒すには、仲間だと思える存在、関係が重要」と考えた横田

中国語・スペイン語の翻訳ボランティアが協力している。



被災した茨城 NPO センター・コモンズ常総市内の拠点。災害発生から 1 週間で助け合いセンター JUNTOS を設置した。

今回の災害で、横田氏は外国人居住者への情報の届け方の難しさを改めて感じたという。避難所には外国人居住者の姿があまりなく、市内で外国人を多く雇用している会社に外国人居住者向けの説明会を行いたいと持ちかけても断られることがほとんどだった。また、様々な文書を翻訳しても、避難所に届けるだけではきちんと活用されていないことも判明した。ただしその一方で、市内在住のブラジル人のキーパーソンが、前述のラジオ放送をインターネットで配信した

ことでかなりの人数に重要な情報が共有され、一定の効果があった。言語・国籍ごとのキーパーソンを見いだし、日頃から繋がりを持つことの必要性を実感したという。

災害から数カ月が経過し、移動支援やカーシェアリング、空家を回収した地域の拠点づくりなど、センターの活動領域は広がっている。現在は、外国人居住者向けのキャリアデザインセンターを行政と連携してつくるべく協議を重ねているところである。今後は、外国人居住者の被災後の状況などをヒアリングを通して、市の復興計画や防災計画に役立てていきたいとしている。復興計画には、外国人居住者の代表と行政の懇話会や、地元の人材を活用した地域情報の多言語化の推進が盛り込まれるよう提言する。行政文書の多言語化の必要性も引き続き働きかけていくという。

(平成 27 年度作成)

瓦版「Juntos（一緒に！）通信」の URL

<http://www.npocommons.org/topics/juntos-special-edition.html>

問い合わせ先

問い合わせ先 : 認定特定非営利活動法人茨城 NPO センター・コモンズ

電話番号 : 0297-44-4281

メールアドレス : info@npocommons.org